



2011年オープン的大型
ショッピングストリート
「楚河漢街」



インテック武漢のメンバー

「武漢」って どんなところ？



インテック武漢 総経理
坂本 一幸

ニーハオ、インテック武漢の坂本です。「武漢ってどこにありますか？」とよく聞かれます。日本での知名度は、沿岸部の都市に比べると格段に低いので、まずは武漢を紹介します。

武漢は中国のへそ

武漢市は、中国の内陸部にある湖北省の省都です。2014年度の人口は1千100万人、GDPは1兆1千764億6千万円、成長率11%の大都市です。北京・上海・広州・成都など中国主要都市の中央に位置しています。市内には長江（揚子江）が流れていることもあり、古くから交通の要所として栄えてきました。よって、「中国のへそ」と現地の人は言います。

近年、中国国内で建設が急ピッチで進められている高速鉄道網をみて、確かに武漢が中心にあります。

歴史的にみると春秋戦国時代の楚の国にあたり、周辺には三国志の舞台となつている多くの名勝旧跡があります。孫権・劉備連合軍が「曹操軍を打ち破った「赤壁」はとくに有名です。また1911年の辛亥革命は武漢市の武昌から勃発しました。

現在は、中国中部地域における経済・金融・貿易・教育・情報通信の中心都市として発展を遂げています。空港や鉄道、高速道路が拡大整備され、地下鉄も長江をトンネルで渡る2号線、4号線が開通し、交通の利便性がとても良くなっています。

また、中国でも有数の学術都市でもあり、中国トップ10の大学2校をはじめ、80校の大学が存在し、在校生は100万人を超えています。教育水準が高いだけでなく、とくにハイテク技術の教育に力を入れています。そのため、毎年優秀なIT人材を多数輩出しています。

急増する日系企業の進出

近年、中国の経済成長やそれに伴う中国沿岸部の賃金高騰により、中国内陸部へ進出する日系企業も

増えています。現在、武漢には143社の日系企業が進出しており、今後が増えると思われるです。以前は自動車関連などの製造業が多数を占めていましたが、現在では流通・小売業や物流業の企業も多く進出しています。昨年末には、イオンモール1号店がオープンし、徐々に生活が便利になってきました。

設立12年目のインテック武漢

インテック武漢は、2003年10月に設立しました。おかげさまで順調に成長を続け、設立当初は13名だった社員も71名となりました。

設立当時のメンバーも多数在籍しており、中国では珍しく社員の定着率が高いことが自慢のひとつです。業務内容は、①ソフトウェア開発 ②SIサービス ③アウトソーシングの3つを柱として日本、中国のお客さまへITサービスを提供しています。

11年培ったシステム開発実績をもとに、お客さまのグローバルなビジネス展開に対応した高付加価値サービスを提供できる総合ITサービス企業をめざしています。